

書評 Book Review

□鈴木棠三:日本俗信辞典 植物編 Tozo SUZUKI: **Nihon Zokusin-jiten Shokubutsu-hen** 文庫判. 540 pp. 2020. 角川ソフィア文庫 22227. ¥1,560 + 税. ISBN 978-4-04-400591-7 C0139.

本書のタイトルを勝手に英訳すれば A dictionary of popular believes on plants, fungi and algae in Japan とでもなるのか. 本書には北海道から沖縄まで日本全国の植物に関する言い伝え, 迷信, 禁忌, 呪いなど民間に伝えられてきた事柄が集められている. 1982年に角川書店から発行された『日本俗信辞典』の中から同書店編集部が植物に関連する項目を取り出し, 文庫本としたものである. 著者鈴木棠三(1911-1992)は国文学者・国語学者で多数の著書がある.

本書には283個の項目があり, 多くはいわゆる高等植物で種類名を漢字(ふりがな付き)で挙げていて, 翌檜, 櫟, 牛膝, 独活, 酢漿草などがあるが, 青菜, 青葉, 雨降り花, 木, 草, 葉, 花などという種類名ではない一般的な名称の項目も含まれる. 他にも藻類には荒布, 昆布, 海苔などがあり, 菌類には茸, 猿腰掛, 木耳, 松茸などがある. 当然ながら身近なものが多い. 各項目の中にはそれぞれ地域ごとに異なった多数の言い伝えがあり, 著者が採集した都道府県名と共に記録されている. 膨大な内容が羅列してある. 引用する方がわかりやすい. 一部を省略するが, 「茄子」には「一富士, 二鷹, 三なすびを吉夢とすることは全国的で, 特に初夢に見ることを喜ぶ. わずかではあるがこれを不吉と伝えている例もある. ナスの夢を見ると運が悪い(愛知), 人が死ぬ(福島県相馬市). 旅立ちの前にナスの夢を見ると危険があるからやめる(広島県佐伯郡), ともいう. ナスを食べると頭の毛が抜ける(秋田・栃木・群馬・埼玉・新潟・愛知・鹿児島), 声が悪くなる(秋田他), 眼病になる(奈良), 目の悪い子が生まれる(北海道), 腹に毛が生える(新潟), 子を多く生む(岡山・広島)という. 疣を取るにはナスのへたでこする(北海道他九州まで)」などなど, ナスだけで13ページにわたっていろいろな記述がある. 本書は本誌事務局に送られてきたもので, このような機会がなければ手には取ることがなかっただろう. 不思議な本であり, 日本の土俗, 民俗の民間伝承の事柄も植物学にも方言名や和名の由来などと多



少の関連があると考えて紹介した. カバーの絵がよく描けていて内容を示しており, 面白い.

(大橋広好 Hiroyoshi OHASHI)

□山田耕作(著), 日本蘚苔類学会(監修): **日本蘚苔類文献目録** Kohsaku YAMADA, Supervised by The Bryological Society of Japan: **Catalog of Bryological Literatures Contributed by the Residents of Japan** 蘚苔類研究 12巻4号付録. 290 pp. 2020. 日本蘚苔類学会.

日本蘚苔類文献目録は日本蘚苔類学会の学会誌である蘚苔類研究 12巻4号に掲載された山田耕作氏による「日本蘚苔類文献目録」(118-121頁)の付録で, 290頁の別冊となっている. 山田耕作氏は三重県の主に高等学校で教鞭をとる傍ら, 蘚苔類の研究を進められ, 中でも苔類ケビラゴケ属の研究を精力的に行い, 本属の世界的権威となり, 1978年には東京教育大学から理学博士の学位を授与されている. 教職を退かれた後は後進の指導に努められている. なお, 本文献目録の出版は日本蘚苔類学会創立40周年記念事業の一つとして企画されたものである.

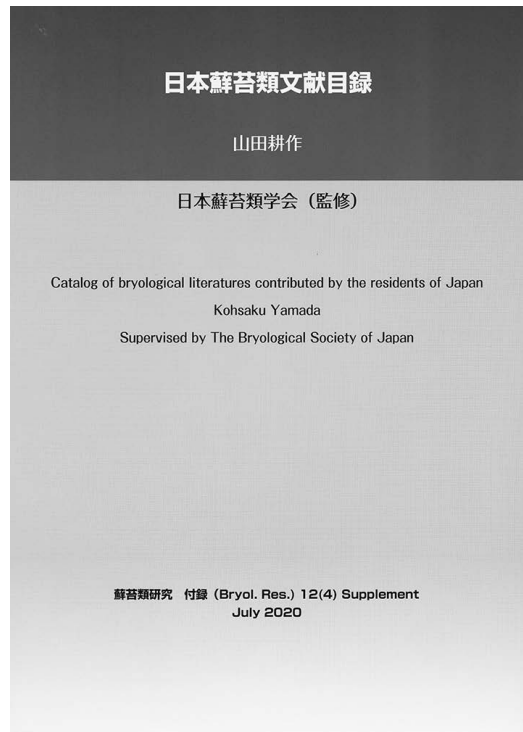
本文献目録には日本在住者1,476名によって

1868年から2010年の間に発表された9,523件の蘚苔類に関する文献が含まれる。このような国レベルの蘚苔類に関する網羅的な文献目録が出版されるのは国内では初めてであり、世界的にみても類を見ない。本文献目録の特徴として、以下があげられる。(1) 日本在住者による文献を対象としており、著者や編者が国や自治体、団体、出版社等で、執筆した個人が特定できない文献は対象外となっている。(2) 目録の配列は著者のアルファベット順、文献は出版または配布された年代順になっている。(3) 共著の文献は各々の著者のところに全ての情報が記述されている。つまり、同じ文献が筆頭著者以外の共著者の項にも掲載されている。(4) 本目録のpdfファイルが提供されている。データが膨大であればやはり効率よく必要な文献を検索できる電子版のほうが便利である。蘚苔類研究はJ-Stageにて公開されており、本誌の付録である日本蘚苔類文献目録の電子版もJ-Stageで公開されている。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/bryologicalresearch/12/4/12_118/article/-char/ja ファイルをダウンロードして、検索すれば該当する全ての文献を探ることができる。ただ、言うまでもなくタイトルに検索項目が含まれていないとヒットしないので注意を要する。なお、著者は本文中で年毎の出版件数をグラフ化し、その傾向を論じている。例えば、1915年、1935年頃のピークは前者が飯柴永吉、岡村周諦、笹岡久彦ら、後者が堀川芳雄、桜井久一、野口彰、服部新佐らの活発な研究活動によるものとしている。

日本の植物の文献目録と言えば、1985年から1994年にかけて全5巻で刊行された金井弘夫氏による「日本植物分類学文献目録」がある。1887年から1993年の間に公表された日本の植物に関する61,000件余りの文献が含まれ、蘚苔類関係では2,311件の文献が掲載されており、分類学関係のものを主とする一方、書評なども一部含まれている。

特定の分類群や地域についてこれまでどのような研究が行われ、何が明らかになっているのかを調べることは研究の出発点であり、その研究のオリジナリティを担保する要点である。ただ文献探索は研究者個人の能力に依存するので、見落としが無いようにすることは中々難しい。論文を投稿し、査読時にレフェリーから見過ごしている論文



を指摘されることは研究者としては恥ずかしいことである。そのため本文献目録のような充実した文献目録は頼りになる存在である。なお、全ての文献を採択することは不可能であり、見落としがでるのは仕方ない。今後、2011年以降に出版された文献の目録を出版する際に見落としした文献を追加することになるだろう。

最後に、山田耕作氏の整理魔ぶりは研究者間で良く知られており、手紙類はすべて差出人毎にファイルされているという（評者はそれを聞いた以降、氏への手紙は丁寧に書くようになった）。そのような几帳面さが「蘚苔類学の発展と蘚苔類の普及を目的に」文献目録をまとめることを決意した一因なのではないだろうか。また、今回の出版にあたり、山田耕作氏の原稿を見直し、修正、追加をし、原稿完成につなげた日本蘚苔類学会40周年記念事業記念出版物編集委員会のメンバーと協力者の労を多とした。我が国の蘚苔類研究の全体像を俯瞰できる文献目録が出版されたことは日本の蘚苔類研究者の誇るべき大きな財産である。

(樋口正信 Masanobu HIGUCHI)